

ヒロシマの孫たち



THE GRANDCHILDREN
OF HIROSHIMA

『あなたの子ども時代について教えてもらえませんか』
あの日までのこと、あの日からのこと、そしてあの日のこと。
70年前、「広島の子ども」だった私たちと
今、「広島の子ども」である私たちが、
出会い、語り合い、つないでいく物語

場所

広島JMSアステールプラザ多目的スタジオ
〒730-0812 広島市中区加古町4番17号

公演日

8月6日(木)・7日(金) 19時公演
8月8日(土) 13時公演 17時公演

主催

ロンドン・パブル・シアターカンパニー、NPO法人子どもコミュニティネットひろしま
NPO法人シアター&パペットアンサンブルグラシオブルオ

共催

(公財)広島市文化財団 アステールプラザ



www.grandchildrenofhiroshima.com

ごあいさつ

このプロジェクトは、広島の子供たちが原爆の被爆者に行ったインタビューを元に、公には2014年8月に始まりましたが、実際にはそれ以前から始まっていました。

1997年、交換留学の一環として私は初めて広島を訪れました。その当時、私の身内に不幸があり、家族の皆に悲しみが広がっていました。広島平和記念資料館で、過去のことをほんの少し学び、心の底から驚いたのです。私の身内に起こったことが、広島ではほとんど全ての家族に起こったのだと。しかも、一分間のうちに。月曜日の朝、午前8:15。これは自然死や病死ではなく、人間が作り出した黙示録。我々人類が発明した原子爆弾が、人類を破壊したのです。

その後2年ほど日本に住み、更に何年も経って、イギリスのロンドン・バブルというコミュニティー劇団と仕事をし、1941年のロンドン大空襲をテーマにした伝承によるプロジェクトに取り組みました。このプロジェクトでは、子供たちが大空襲の生存者にインタビューをし、それを元にコミュニティー向けパフォーマンスを作りました。パフォーマンスは大成功で、このようなプロジェクトを広島でも行えないかと思ったのです。そして現在に至ります。

去年の夏に被爆された方にインタビューをしましたが、これは実に素晴らしい経験でした。目を覆いたくなるような光景を目撃したお年寄りの方々の目を覗き込み、その記憶を子ども達と分かち合う姿を目の当たりにするのはなんと光栄だったことでしょう。プロジェクトはどんどん進んで行き、協力者、一緒にパフォーマンスを作る仲間や友人が増え、物語は人から人へと伝えられ、紙の上から舞台の上へと移って行ったのです。物語を掘り起こし、パフォーマンスの形にするのを手伝ってくれた人々が、今皆さんとこの物語を共有します。

こういったパフォーマンスの作り方はイギリスでは比較的新しく、情報を探求していくのにも楽しい手法だということも分かりました。若者のエネルギーと熟年者の知恵が融合し、時には子ども達がお場をリードして、大人は一步下がって学ぶという場面もありました。一番大切なのは、コミュニティーの皆で、言葉ではうまく表現できないことに重点を置き、分かち合う機会を得られたことではないかと思います。演劇人として、ヒロシマの物語を語ることに何かしらの価値を付け加えられることを心より願っています。

終戦後70年経った今、広島市民が、あの日からの物語をするためにここにいます。亡くなった方々の魂を偲ぶために、そして、あの日からの物語と共に生涯を生きていらっしゃる方々の栄誉を讃えるために。この物語を次の若い世代に譲り渡すことにより、若者や我々皆は、過去に起こったことから学べるのだと思います。

シェークスピアの戯曲に "what's done cannot be undone" (覆水盆に返らず) というセリフがあります。原子爆弾は発明前に戻ることは出来ません。この次に何がやって来るのか私たちの知る由もありませんが、平和を追い求めるだけでなく、闘いというものに対する純粋な理解をも深めるべきなのではないでしょうか。なぜ、人間や国家は武装する必要性を感じるのか、どうやったら国家間や個人同士の権力と支配を解体していくことができるのか。

このパフォーマンスが、この議論に何かしら貢献できたらと願っています。

チームとカンパニーの皆さん、インタビューをしてくれた子ども達、そして何よりも、この物語に参加させてくださった被爆者の方々に心より感謝の意を表します。

マリゴールド・ヒューズ(プロデューサー)

インタビューに協力いただいた方（15名の方に延べ18回実施）

青野スズミさん、岡村悦也さん、沖本富美江さん、梶本淑子さん、梶矢文昭さん、河野昭人さん、佐藤広枝さん、田中稔子さん、寺本貴司さん、韓昱洙さん、松浦悦子さん、免田裕子さん、八幡照子さん、山本定男さん、吉原美玲子さん

出演者／キャスト

池田典弘	ナレーター、帰ってきたお父さん
増田穂花	新しい学校に連れて行かれるひろえ、孤児
田城まいら	ひろえの前の学校の友達、ひろこの妹
鈴木ひかる	ひろえの新しい学校の友達
松尾敢太郎	あきと(目の検査を受ける青年)、若い米兵
田城美怜	ひろえの母
増田奈乃佳	ひろこ(B29を見つける女の子)、孤児
田城れおな	としこ(友達と待ち合わせる女の子)、インタビュアー
村上陽梨	みっちゃん(としこの友達)
砂掛優子	としこの母
宮地あや	えつこ
鈴木富士	えつこの声
馬庭りお	よしこ(わんぱく三人兄弟の姉)、下敷きになった女の子
宇佐美節子	よしこの声
松尾 潤	三人兄弟の長男、チョコレートを食べる男の子
藤田 響	三人兄弟の次男、ふみあき
橘高快周	三人兄弟の三男
林 大貴	年上の米兵
有吉美保子	若い時のひろえ
上田小百合	証人

スタッフ

脚本	瀬戸山美咲 (ミナモザ主宰)
共同演出	ジョナサン・ペサブリッジ (ロンドンバブル・クリエイティブディレクター)
共同演出	秋葉よりえ (NPO法人シアター&パペットアンサンブルグラシオブルオ芸術監督)
舞台美術・衣装	長谷川康子
美術製作	上田小百合 (unima design 室)
照明	木谷幸江 太田真美 (株式会社 篠本照明)
音響	木村 聡 (劇団Tempa)
楽曲提供	ウィルフ・ペサブリッジ
舞台監督	田中暁弘 (劇団小豆組)
ウェブサイト	田城美怜
ビデオ撮影・編集	来山英明 壇上厚広
共同プロデューズ	マリゴールド・ヒューズ 小笠原由季恵 (NPO法人子どもコミュニティネットひろしま)
カーテンコール曲提供	hyoutami 「今ここ」

翻訳協力

山中結莉

協力(日本)

世田谷パブリックシアター 恵志みなこ
広島県立大学人間文化学部教授 吉本和弘
特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター
広島平和記念資料館

協力(ロンドン)

ジョエル・ヒューズ、ジェマ・バーディット、ティム・ヒューズ、シアターセンター



ご支援いただいた方々(敬称略)

Donations: Tim Hughes, Joel Hughes, Holly Hughes, Gillian Lacey, Peter Burditt, Zal Sethna, Stephanie Waller, Digby Waller, Ainslie Waller, Sue Duncan, Gemma Burditt, Gemma Ronte, Robert Brand, Steve Nurse, Jane Valey, Jonathan Petherbridge, Anna Quine, Kate Sissons, Rosa Aers, Ellie Quine, Helle Skjervold, Lydia Wilson, Manuel Arrais, Gareth Price, Yorie Akiba, Christine Ellis, Flora Wilson, Francesca Delaney, Susannah Delve, Joe Hewton, Cristina Pinan-Hughes, Nick Llewellyn, Alex Madewell, Amanda Gettrup, Mirry Stolzenberg, Esther Mcauley and Dan Smith.

藤田恵美子 長谷川正明 梶山香代子 北川美登里 瀬川朋 平岡可英 塩成聖恵 引野美千代
 吉田文子 安原恵理子 田頭伸子 大野智恵 山内美緒 行友保子 山本博子 中岡博美 三宅真理
 進藤由美子 中山育雄 大段順子 岡本邦子 松浦郁子 笹井知枝美 木村裕美 藤岡明美 藤井早苗
 今福三津枝 有岡クニエ 米澤恭子 大野喜子 増田順子 檜垣陽子 中辻直美 大津恭子 石橋なぎさ
 岩井洋子 高橋恵子 柿原真理子 八幡照子 来山英明・美智子 渡辺孝 秋中広美 独楽倶楽部 他

